

FOMC通過後も市場のリスクオンの流れ変わらず



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① FOMC受け株高・債券高・米ドル安に

1月31日～2月1日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で、FRB（米連邦準備制度理事会）は0.25ポイントの利上げを決定しました。利上げ幅は2会合連続で縮小し、今年前半の利上げ停止が徐々に視野に入り始めたといえます。

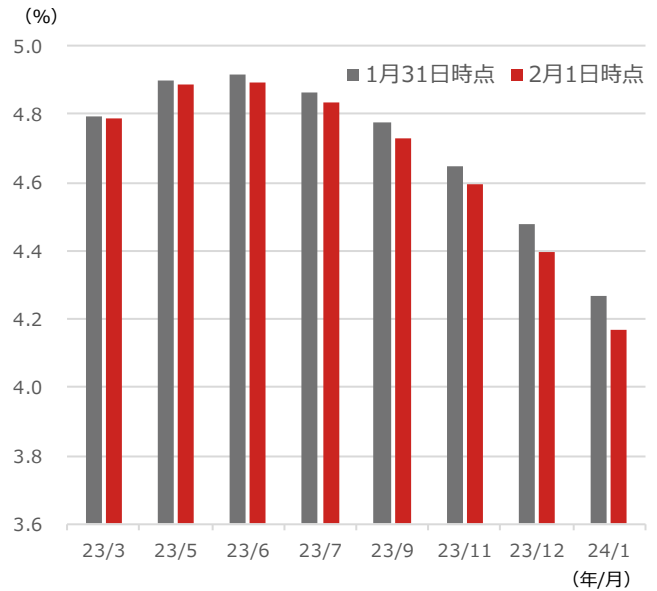
FOMC声明文では政策金利の先行きについて「継続的な引き上げが適切」と前回までの表現が維持されました。ただ、FOMC後の記者会見でパウエル議長は「景気抑制水準へあと2回ほどの利上げを協議中」、「引き締め過ぎは望んでいないし、その動機もない」と述べるなど、利上げ停止が近付きつつあるとの認識を示しました。こうした発言を受け、市場は株高・債券高・米ドル安で反応し、FOMC通過後もリスクオンの流れは継続しています。

ポイント② 市場のリスクオンの流れ続く公算も

パウエル議長は「予想通りの経済動向なら23年の利下げは想定せず」と述べましたが、米FF金利先物はFOMC後に前日比で低下し、年内の利下げ予想も変わっておらず、市場とFRBの見解には依然「溝」があるといえます（右上図）。

背景には米CPI（消費者物価指数）の伸びが6か月連続で鈍化し、米インフレ圧力が和らいできたことで、市場では過度な引き締め政策が近い将来転換されるとの見方が強まっていることがあります。23年12月限の米FF金利先物は、米インフレ圧力が和らいだ昨秋以降横ばい（利下げを織り込む）となり、それに伴って市場のリスク選好姿勢が強まっています（右下図）。米CPIが昨年6月にピークを付けたことを考えると、前年のベース効果で当面は米インフレ鈍化が続くとみられ、市場のリスクオン姿勢は続く可能性があります。

FOMC結果発表前後の米FF金利予想値2時点比較



期間：2023年3月～2024年1月FOMC
・FF（フェデラルファンド）金利予想値は先物市場から算出した2023年3月～2024年1月FOMC（計8回）終了後時点の金利予想
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

23年12月限米FF金利先物と米金融状況指数



期間：2022年1月3日～2023年2月1日、日次
・Bloomberg米金融状況指数は、米国の金融市場全体のストレスを示したもので、正の値は金融緩和の状況、負の値は金融引き締めを示す
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。